

令和2年度第6回コアメンバー会議 議事録【概要版】

日時：令和2年12月23日（水）19：00～21：00

場所：西条市役所新館4階404会議室

■出席者：別紙出席者一覧のとおり

■内容：

1 本会議の方針・進め方の説明（確認）

◎事務局：

第1回の会議で市から財団設立の提案をさせていただいたが、前々回（第4回）より方針を転換し、形を問わず、チャレンジを応援しあえる仕組みの具現化を目指しているところ。

- ・令和2年度は、議論する1年
- ・令和3年度は、仕組みを構築する1年
- ・令和4年度は、実施・試行する1年

というスケジュール感で、令和4年度から「何らかのカタチで動かしてみる」ことを目標とする。「応援しあう関係性」の構築により、今ある活動の継続や新たなチャレンジの誘発につながり、一人ひとりの想いを実現できる地域を目指している。

- ・チャレンジする人のスキルやノウハウをサポートする機関として、今すでに、市内にはNPO法人まちづくり応援団、サイクス、一社リズカーレなどの支援団体がある。一方で、「それぞれがどんな活動をしているのか見えておらず、適切かつ必要な支援が来ているのかどうか分からないという現状もある」という意見が前回出た。
- ・今回は、今ある活動を「まずは知ろう」、ということで、支援に取り組む3団体からお話しいただく。
- ・今回の目的：「チャレンジの支援をしている団体の活動内容を知って、何が課題か、何が必要なのか、議論を深める」

2 チャレンジの支援を行っている団体の活動を知ろう（目的、事業内容、強み、課題 等）

◎NPO法人まちづくり応援団：活動内容説明（別紙資料の通り）

～質疑応答～

◎事務局：「人的資源の不足」とあったが、人的な役割としてどういうものを求めているか？

→実際に市民活動する人が少ない。何かを一緒にやりたいと思うときにいない。

他にも、色々な意味を含む。私たち支援者は、お給料をいただいて公的な支援をしている。受益者から資金をいただくことはない。有給スタッフは全国でも少ない。そういった意味で、人的資源の不足という意味もある。

◎メンバー：目指すところの「自立した市民」とは、どんなイメージか？西条市に「自立した市民」は、今どれくらいいると考えているか？

→「自分たちの住むまちを自分たちの手でよりよくしよう」と活動している、活動しようとする市民を想定している。誰かに任せるのではなく自分で少しでも動いてみようとする人。

さらにいうと、自立とは概念が広いが、補助などに頼らず寄付や自主財源など自分で資金を集めて活動を継続していけるということ、という含みも持っている。

「自立した市民」がどれくらいいるか。私見でいうと、この職に携わる前の予想より多かった。市民活動が盛んではないと思っていたが、市民活動支援センターは施設利用が多いかなと思っていたが、一番多かったのは相談に来る方であった。センターオープン前、市内にどんな団体がいるのかを調べていたが、その情報に載っていない団体がたくさんあり、今は知られていない少人数でやっている団体もあるのではないかと思う。

◎メンバー：サポート内容の具体例は？相談に来た方にどんな価値を提供しているか？

→昨日センターに来られた方の例をあげると、高校生が一人で「地域の活動に参加したい」と来た。今は募集がないが数団体の活動情報を伝え、その子が「自分で連絡してみます」というところまでおつながりをした。場合によっては、こちらから団体に連絡することもあるが、高校生からの相談の場合、社会勉強のためになるべく自分でやるように促している。

ほかに、サポート内容の事例として、児童館とNPO法人の協働事業。

両団体がイベントをする際、動き方が違うため、団体同士の通訳として間に入って円滑にいくようサポートしてほしいという依頼だった。両団体にヒアリングしたうえで、やりにくい部分なども聞きながら進め、当日のイベントにも参加し、サポートした。「チラシを作る人がいない」というところでお困りだったため、「高校に働きかけてみてはどうか」といった声かけをした。この時は団体が自分で動き、高校の美術部にお願いでき、無事開催できた。

このほか、パターンはいろいろある。

◎サイクス：活動内容説明（別紙資料の通り）

～質疑応答～

◎事務局：移転予定があるためSOHO支援室等の新規入居は見送られているということだが、ニーズはどうか？前々回、新規創業の場合物件費に困るという話もあった。

→多くはないが、3ヶ月に一人程度、入居相談がある。十分な支援ができないということでお断りしている状況。入居した場合、半年に一度の面談をベースに、都度、相談に乗る。販

路開拓のお手伝いや情報の紹介など、アドバイザーを中心に支援していた。

◎一社リズカーレ：活動内容説明（別紙資料の通り）

～質疑応答～

◎事務局：事業を行う中で、団体としての課題は？

→中間支援団体としての構造的課題でいうと、受益者負担による収益事業は基本的に難しいこと。起業支援するうえで、起業家からフィーをとって支援するというのはなかなか成り立たないと思う。そのため、委託事業等でやっていくしかない。

団体としての課題は、属人的な商売となること。まだまだ仕組みが成り立っていないところがある。ただ、起業支援リソースに関しては、コワーキングスペースに所属するメンバーが機能するのでそこはそれほど心配していない。

どちらかという、コーディネートできる人、経営感覚の中で相談に来た人を正しくカウンセリングできる人が少ないという印象がある。

◎事務局：収益源は、今のところ行政からの委託。今後もそう？

→そう。今はローカルベンチャー事業として補助金がついているのと、サイクスからの金融支援が出ている。一通り西条にいる人には門戸を開いているが、ボランティアでやりたいかと言われるとそういうわけではない。

◎事務局：他の地域の起業支援している団体もだいたいそういった形？

→そういう形。ただ税理士等も起業支援はしており、例えば2千万円のものづくり補助金を引っ張ってくる時に、成功報酬として10%を受け取るという起業支援の仕方も一般的。

◎事務局：サイクスも、相談で手数料をもらっているわけではない？

◎メンバー：そう。そこは、他の2団体の話と共通している。

◎事務局：チャレンジを支援する団体の課題がある場合、団体同士がつながることで補完しあえることがあるのかな？と思うが、どうか。サイクス、リズカーレは一部連携をし始めたところ？これからどんな展開がある？

◎メンバー：今日も含め、よくお越しいただき人をつないだりする機会もいただいている。

◎メンバー：今日の事例を紹介すると、今日来ていた起業家はあるスキルを持っておりそれで商売したい人。企業の人事など人に関する課題にビジネスチャンスがあると考え、サイクスにお邪魔して、コーディネーターさんに起業家を紹介し、ニーズを拾い出していく、というところで提携している。私たちはどちらかというと起業したい人を発掘していく役割で、きちんと企業等と接続していくところをサイクスと連携してやっている。

◎事務局：サイクスと市民活動支援センターはつながり等はどうか？

◎メンバー：ある団体が、組合化、法人化、あるいは NPO 法人も選択肢にある、という相談があり、サイクスのコーディネーターの方と一緒に団体のお話を聞き、双方からメリット・デメリットをお伝えしたということがあった。

◎事務局：前回の会議で、お互いの活動内容を知らないことも結構あるとお聞きしている。

今回はまず活動内容を知ろうということで設定した。

これから移転等もそれぞれの団体が控えられているが、つながることで、お互いに補いあえたり、同じような課題に思っている部分を解決できたりするのかなと思うが、どうやっていったらつながれる？物理的に距離が近くなることでつながれる？

◎メンバー：自団体では毎週金曜に「朝会」という形で活動の報告をしあっている。新施設でも、各団体が「こういう活動をしています」と共有できればいいなと個人的には思っている。どこが音頭をとるのか、ということもあるが、回していてもいい。ある意味、強制的に話す機会を作ればいいと思う。

◎事務局：団体の課題として、一部の方が持っているノウハウ等の引き継ぎは、どの組織にも課題かと思うが、何かできることはあるのか？

◎メンバー：プロパーの人を雇うことで解決できる。今はどうしても市からの事業としてやっているために、雇えないのだが。そうすると、相談等でお金を稼ぐという方法がいいのか、というところにもつながっていくが…。

ただそうした手数料で運営していくことは自団体の趣旨からずれるという可能性もある。企業からはナイーブな情報も多く、今現在は「この人だから」ということで話してくれる企業も多い。信頼関係を築けるくらいまで一緒に働いていく必要があると思う。

◎事務局：起業支援について、資金調達の関係でクラウドファンディング（以下、「CF」とする）も含め取り組まれていると思うが、現時点で起業家の方にアドバイスして実際に資金調達をした事例はあるか？

◎メンバー：うちのメンバーでいうと、CFは資金調達というよりはネットショップの延長線上としてやっており、資金調達の例としては適切でないかもしれない。

ほかに、わかりやすいところという、助成金などの紹介をしたり、市民活動というZENの仕組みを使ったりもしている。

SIBも資金調達の一つだと思うから、「あらゆる可能性を知っている人」のような、ローカルファンドの取り組みの中で資金調達メニューが充実していくといいと思う。

◎事務局：市民活動支援センターも、助成金の紹介をしていますよね。CFもしている？

◎メンバー：そうですね、サポートをしている。CFをやりたいとの相談も多いが、「CFはお金がたくさん集まる」と思っている人が多い。具体的なこと、目標額や必要な額もはっきりしていないということも多く、相談に乗っても実行に至らないケースが多い。仕事しながらという人が多いので、自分の時間を使うことが可能か、ということもお話している。

◎事務局：今、リズカーレは「アーリー期」の起業支援をされているが、その資金調達部分を市民活動支援センターが連携して取り組むこともできる？

リズカーレが支援をしてある程度の事業計画ができ、そこからCFをやってみましょう、となった時に、市民活動支援センターでやっているCFに乗っかることは？

◎メンバー：手段は同じかもしれないが、目的の違いはあると思う。

最終的に市民活動として非営利の活動としてしたいのか、それとも起業としてしたいのか。CFの仕組みを使うことは可能。

◎事務局：CFに「チャレンジする側」としてはどうか？最近見送った？

◎メンバー：見送ったというよりは、商品の候補がいろいろ出てくる。

ただ、人手不足であり、やりたいことがいろいろある状態だが、まずは人を雇って体制をしっかりとさせたい。人材育成や新規事業といった展開も考えたりしていて、選択肢が多く悩んでいるところ。アドバイザーの方や銀行などにも相談しつつ進めている。

いろいろと悩むがチャレンジしたい。何かしてまちを元気にしたい！という想いがある。

◎事務局：地域コミュニティの話し合いのサポート等している立場から、前々からまちのことを自分ごととして考える人を増やすことが課題と聞いているが、このところはどうか。

◎メンバー：それは持ち続けているテーマ。「答え」をすごく求めようとする人がいる。それは受け身で暮らしているからかな？と思う。

答えがあれば安心感はあると思うが、地域のことには答えはない。答えがないところを「自分たちで」探していくこと。それが、地域を元気にしたりいろんな問題を解決したりする

ことになると思う。

でも、何年か前の始めたばかりの頃よりは、認識が違ってきた気はしている。データでいうと1%とか10%、ある程度の域を超えれば、そこから増えていくのかなと思っている。一般市民として、自分が住んでいる近所はどうか、「自分で」考えることがもう少し増えれば、全然違ってくるのではないかと思う。答えを求めがちだが、そこを突破して、「自分たちで考えて、作っていけばいいんだな」と思えればと考えている。

それは、大きな西条市として見ると難しいかもしれないが、地域単位で考えれば、少しずつ芽生えてきている。その「見える化」ができれば、近隣の地域にも広がっていくのではないか。移住してくる人や起業する人などが増えていくのを見て、気が付く人もいる。少しずつ形にして、「小さな見える化」をしていくことも必要かと思う。

◎メンバー：今日の3つの団体の報告が社会課題を表していると思った。説明資料中「公益的な市民活動を行う団体（個人）に対する支援イメージ図」において、西条にあったらいいなと思うのは、「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス・NPO 法人の活動を支援する組織」だと思った。そこを支援する組織というのではないかもしれない。

今後のヒントは、報告にあった最近の傾向の「副業・複業が増えてきた」「農業系、社会課題系、非営利系が増えてきた」「女性が多い」「専門性が低い状態の人」ではないか。一般企業でもなくボランティアでもなく、というところを含めて支援できるような組織があるといいな、というイメージを持った。

ボランティアの支援も、起業支援も、それぞれが専門性やノウハウをもっている。一方で社会課題を解決していく時に具体的にどういう支援ができるのか、という話があまり出てきていないような気がしている。やりたいと思う人がまだ成熟していないということもあるかもしれないが、一歩先を見ると、そういうところを支援できるようなものがあると良いかもしれない。

「受益者からお金を取れない」というところについて。それはなぜかという、無料で相談できるところが既にあるから。でも無料で相談できるところが、完全ではない。そもそも日本では、相談に対してお金を払う習慣が少ない。もしお金を払って相談するなら、助成金の申請書を書いてくれて、成功報酬とか。

◎事務局：説明資料中「公益的な市民活動を行う団体（個人）に対する支援イメージ図」を見ていて思ったのが、ボランティア、NPO、企業、それぞれを支援するところが別々。個人の方が何かをやろうとして、とりあえずボランティアを始め、次にNPO 法人にしよう、ソーシャルビジネスをして企業になっていく、というのが理想的な形。

そこがつながっていく仕組みがあればいいのかなと話を聞く中で思った。

「了」